

北部タイ日本語日本研究コンソーシアムの活動

ファーイースタン大学ビジネス日本語学科
北部タイ日本語日本研究コンソーシアム会長

八巻 一三男

YAMAKI Isao

キーワード： タイ、大学コンソーシアム、異文化交流

はじめに

北部タイ日本語日本研究コンソーシアム（以下コンソーシアム）は北部タイにおける大学、日本研究機関との文化・学術などについての発展と相互交流を目的として2009年7月17日に加盟大学9大学、加盟機関2機関で設立された。会長にはチェンマイ大学マスコミ学部のナッタヤー・タナーノン准教授が就任した。また事務局はチェンマイ大学日本研究センターに設置した。2011年3月16日に役員の任期満了に伴い、会長に八巻一三男が選出される。2011年2月事務員の退職によりチェンマイ大学日本研究センターから事務所をファーイースタン大学に移す。2012年12月現在加盟大学9大学、加盟機関1機関で構成されている。

加盟大学および機関

	大学・機関	所在地
1	チェンマイ大学	チェンマイ
2	チェンマイ・ラチャパット大学	チェンマイ
3	パヤップ大学	チェンマイ
4	ファーイースタン大学	チェンマイ
5	チェンライ・ラチャパット大学	チェンライ
6	ナレースワン大学	ピサヌローク
7	ピブンソクラーン・ラチャパット大学	ピサヌローク
8	ウッタラディット・ラチャパット大学	ウッタラディット
9	パヤオ大学	パヤオ
10	チェンマイ大学日本研究センター	チェンマイ

これまでの活動

2009年度より現在まで毎年盤谷日本人商工会議所（JCC）より、日本短期留学奨学金（各大学2枠、20,000バーツ）、優秀学生奨学金（各大学学生100人に対して1枠、

20,000 パーツ)、大学院奨学金 (ナレースワン大学院生に 2 枠、30,000 パーツ) の支援をいただいている。また毎年 11 月に JCC の方を招いてチェンマイにて奨学金授与式を行っている。これまで 4 回行われ、2012 年の奨学金授与式はラチャパット・チェンマイ大学にて行われた。

学生の奨学金以外に JCC より毎年大学機関に日本語日本研究促進事業支援の予算をいただいている。当初は各大学単独で行う事業 (日本語書籍購入、日本祭など) についても支援をいただいていたが、2011 年度より原則としてコンソーシアム加盟大学機関が共同で参加できるような事業に対してのみ支援が得られることとなった。



2009 年 11 月 21 日 アマリ・リンカムホテルにて行われた第 1 回奨学金授与式

共同で行った事業としては、2009, 2010 年にチェンマイ大学日本研究センターが行った日本連続セミナーや、2010 年にラチャパット・チェンマイ大学で行った「漢字名人を探せ！」コンテスト、2012 年同大学による「日本文化交流」、2011 年と 2012 年にファーイースタン大学とパヤオ大学で行った「かるた大会」、2012 年にファーイースタン大学とパヤップ大学で行った「日本式運動会」がある。これ以外では 2011, 2012 年にコンソーシアム加盟大学の教員を対象に北部タイ日系企業訪問 (ランブーン県) を行った。また 2012 年に JCC の委員の方に講師になってもらいファーイースタン大学にて「JCC による日本セミナー」が行われた。



2011 年 1 月 31 日 パヤオ大学で行われたパヤオ大学・ファーイースタン大学による、かるた対抗戦が実施された。2012 年 9 月 8 日には場所をファーイースタン大学に移して、京都外国語大学と 3 大学による対抗戦を行った。



2012 年 9 月 12 日 ファーイースタン大学にて行われた「JCC による日本セミナー」JCC の方にタイでの日系企業の様子などについて講演をしていただいた。

その他 2011 年外務省主催の 21 世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS Program) にて北部タイ日本語日本研究大学コンソーシアム加盟校が選ばれ、その中から 20 名が 8 日間の日本での研修を行った。2012 年には 11 月末に外務省主催の「絆プロジェクト」でコンソーシアム加盟大学から 10 名の学生が参加し、10 日間日本での研修を行った。

さらに2012年北部タイ大学生スピーチコンテストを共催した。今年で8回目を迎えたこのコンテストの優勝者には一年間上智大学で留学ができるという豪華な賞品が用意されている。過去のコンテストの優勝者はすべてチェンマイ大学の学生である。今年も優勝はチェンマイ大学のニラーサットさんが選ばれた。また第二位には、パヤップ大学のチュリーティップさんが入賞した。チュリーティップさんには副賞として、JCCより1万バーツが贈られた。



2013年2月9日 チェンマイ・プリンス・ロイヤル高校で行われた「第8回北部タイ大学生スピーチ・コンテスト」に参加した学生たち。後ろに立っているのはコンテストに入賞した学生。

学術的な面では加盟校教員執筆による日本事情のテキストがまもなく完成する予定である。このテキストは見開きで日本語・タイ語の2言語対応で、大学の授業での使用を目的としている。

コンソーシアムを通じて得られた効果

コンソーシアムがスタートして4年が経過した。コンソーシアムがあればこそ可能であったことは以下のとおりである。

1. コンソーシアムを通じて、これまで個々の単位であった大学間につながりが生まれた。さらに共同で事業を開催することで学生同士の交流ができた。
2. JCCの支援を受け定期的なセミナーや講座を北部タイで開くことができた。これにより学術的な面で大きな役割を果たすことができた。
3. コンソーシアム加盟大学の教員が日系企業訪問を通じて、企業と大学側の間で意見交換ができ、企業と連携協力していく下地ができた。
4. 北部タイにおける日本語専攻学生のデータなどの情報の共有が可能となった。2012年12月現在北部タイにおける日本語専攻の学部生は1,182名、院生は27名となっている。また日本語常勤教員はタイ人34名、日本人31名である。
5. 毎年JCCより奨学金をいただけることで、学生の日本語学習をする動機や意欲を生んだ。
6. 外務省主催の事業ではあるが、JENESYSや絆プロジェクトなどコンソーシアムを通して、教員や学生に日本に行く機会を与えられた。

コンソーシアムの今後の課題

運営に関して現在会長、副会長、会計の3名で行っているため、3名の運営実行委員の負担が大きい。今年度の役員任期満了に伴い運営に関しても各大学で責任を持って仕事を分担するよう見直す。またどうしてもチェンマイ県にある大学が中心で運

営をしているので、今後はいかにチェンマイ県以外の大学にも運営に積極的に参加してもらえることができるかが大きな課題である。同時にこれからは、今以上にコンソーシアムに加盟していることで、企業との結びつきができる、就職に役立つなど、目に見えるメリットを作っていくことも必要となるだろう。また学術的な紀要や活動報告を最低年1回は発行していくことで開かれた研究の場としての役割も担うべきであろう。